



当園の知られざる魅力 **森の妖精** に会いに来ませんか？

“オオウメガサソウ”

特別公開ガイドツアー

6/7(土)～15(日)

『環境シンポジウム』も開催 6/22(日)



2013年6月14日撮影

2013年6月23日撮影

皆さんは“オオウメガサソウ”という小さなピンク色の花を知っていますか？

国営ひたち海浜公園といえば、ネモフィラやコキアといった大面積の花畑を思い浮かべる方が多いですが、公園として整備される前は長い間軍用地であったため、現在でも手付かずの自然が残っています。また、公園の面する太平洋沖合は、寒流と暖流がぶつかる場所であることから、園内には生息域が北限或いは南限に近い生物が混在しています。中でも“オオウメガサソウ”は、本公園が日本の南限地とされており、茨城県レッドデータブックでは絶滅危惧ⅠAに、環境省レッドデータブックでも準絶滅危惧に指定されている大変貴重な植物です。

このオオウメガサソウの開花に合わせ、6月7日(土)～15日(日)〈休園日の9日(月)を除く〉の間、通常は植物保護のため立ち入りを禁止している「ひたちなか自然の森・植物保護区」を特別公開し、ガイドツアーを実施します。また、6月22日(日)には、樹林や砂丘など本公園の特徴的な自然を題材としたシンポジウムを開催します。

この機会に、うつむくように可憐に咲く「森の妖精」に出会い、身近にある自然の魅力に触れてみませんか？

お問い合わせ先

国営ひたち海浜公園 ひたち公園管理センター 広報課 広報係 服部・浅沼・安蔵

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4

TEL: 029-265-9001 (報道関係者の方は 029-265-9004・9005 迄) FAX: 029-265-9339

ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp> “ひたち海浜公園”で検索。

オオウメガサソウ

開花：6月上旬
～中旬

イチヤクソウ科ウメガサソウ属／草状小低木（常緑）

北半球の冷温帯から亜寒帯を中心に分布し、日本では、北海道、青森県、岩手県と国営ひたち海浜公園など、ごく限られた場所に自生しています。

主に、日当たりの良いアカマツ林の林床の貧栄養な砂質土壤に地下茎を伸ばして生育し、高さ10cm ほどの茎の先に、直径1cm の淡いピンク色の花を咲かせます。

茨城県レッドデータブックでは絶滅危惧ⅠA、環境省レッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されており、本公園が日本の南限地とされています。

梅の花に似た花を咲かせるため「ウメガサ」の名が付き、よく似た「ウメガサソウ」より大きいことから「オオウメガサソウ」と名付けられました。うつむくように可憐な花が咲く姿から「森の妖精」とも言われています。例年6月から7月の梅雨の時期に花が咲きますが、ひとつの個体が花を付けるようになるまでには5～7年かかると言われています。

松の根共生菌と共生し、小さな姿ですが立派な常緑樹、樹木の仲間・低木です。

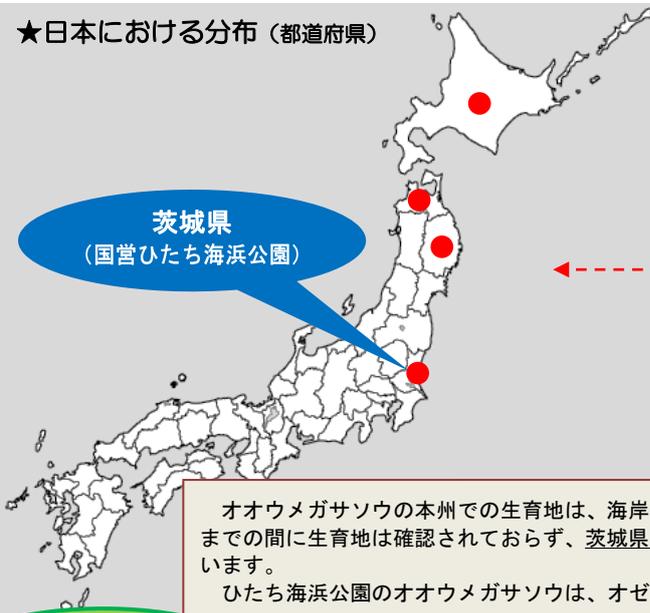
～ひたちなか自然の森で同時期に咲く花～



左：ウメガサソウ 右：イチヤクソウ (2012年6月10日撮影)

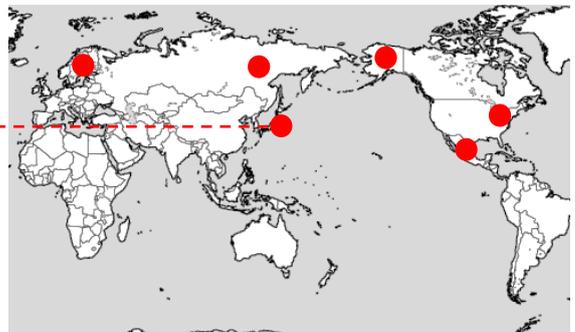


★日本における分布（都道府県）



★世界の分布

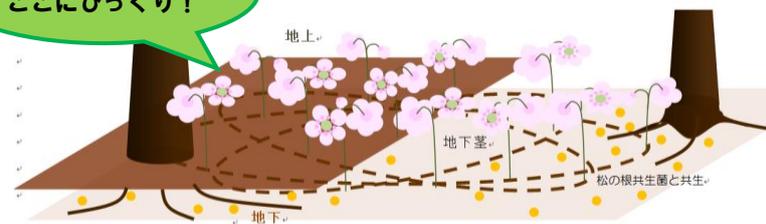
北半球の冷温帯から亜寒帯を中心として、シベリア、ヨーロッパ北部、アラスカ、米国北部、サハリン、メキシコに分布



オオウメガサソウの本州での生育地は、海岸砂地など、明るいアカマツ林の林床です。青森県から茨城県までの間に生育地は確認されておらず、茨城県（国営ひたち海浜公園）は隔離的に分布した生育地となっています。

ひたち海浜公園のオオウメガサソウは、オゼイトンボと同様に氷河期の名残りと考えられています。

オオウメガサソウ
ここにびっくり！



地上では、数株～数10株のまとまった群落のように見えますが、実は地下茎でつながっている「ひと株」なのです。ひと株だけどこかに移したい・・・そう思っても絶対にできません。また、環境が変わると、もうそこでは生きることができなくなってしまいます。



～ オオウメガサソウの生息環境 ～

生育環境であるマツ林が荒れています…

オオウメガサソウにとっては、マツの根共生菌と共生していることから、マツの存在がなくては生きていけません。そのマツの林は、人の手入れがあることによって維持できるのです。

手入れされた林

放置された林



手入れがされて林床がすっきりとしたアカマツ林。



放置され藪(ヤブ)化した林床。丈の低いオオウメガサソウにとっては生育環境として暗くなり、この時点でダメージを受けてしまいます。



やがてアカマツに代わり、コナラなどの広葉樹林へと推移。アカマツが減ればオオウメガサソウの生育環境も減少します。

オオウメガサソウを守るためには、良好なアカマツ林を維持することがとても重要です。



「ひたちなか自然の森」は、ひたち海浜公園の特徴ともいべき自然が残されています。この森は、面積約12haのアカマツを主体とする森で、かつては人々が山に入り、柴(枝)や落ち葉をとって燃料とした「里山」として、人と自然のかかわりの中で保たれていた森です。その林床には、一面を覆うコケ類やオオウメガサソウが自生し、観察池には水辺に生息するさまざまな生き物たちが暮らしています。

高木層のアカマツ、低木層のヤマウルシ、ナツハゼ、林床のハイゴケやハナゴケで構成された森は、適度に湿度が保たれ、人が手入れを続けてきたことで、オオウメガサソウの生育に適した環境が維持されてきました。しかし、現在では、こうした人々の暮らしと森が切り離され、オオウメガサソウの生育が危ぶまれています。

活躍する“里山パートナー”

2010年6月に開催した「第一回オオウメガサソウ保全シンポジウム」を受けて、同年10月、貴重で有用な植物が生育する里山環境の保全を目的に「里山パートナー」が発足しました。2006年度以来途絶えていたオオウメガサソウの追跡調査を行うとともに、里山管理を行うための技術を学んでいます。



オオウメガサソウの調査や森の管理作業などの保全活動を行っています。



オオウメガサソウについて楽しく学ぼう！学習型イベント開催！！

オオウメガサソウ ガイドツアー



昨年の開催風景 2013年6月22日撮影

「ひたちなか自然の森・植物保護区」では、オオウメガサソウをはじめ、ウメガサソウ、イチヤクソウなどの稀少植物が開花期を迎えます。

開花に合わせ、貴重な自然環境をより多くの方々に観ていただき、自然への関心を深めていただくことを目的として、期間限定で植物保護区を特別開放し、ガイドツアーを実施します。

■日 時／6月7日(土)～15日(日)

- ①10:00～10:40 ⑤13:20～14:00
- ②10:50～11:30 ⑥14:10～14:50
- ③11:40～12:20 ⑦15:00～15:40
- ④12:30～13:10 ⑧15:50～16:30 (土日のみ)

※開花状況に応じて日程を変更する場合がございます。

※9日(月)は休園日です。

※雨天決行

■受 付／ひたちなか自然の森入口
(西口サイクルセンター横)
各回開始30分前より受付

■場 所／ひたちなか自然の森

■定 員／各回先着30名(当日申込)

■参加費／無料

■協 力／茨城生物の会、里山パートナー

環境シンポジウム

樹林や砂丘エリアの貴重性、動植物の生育環境保全の重要性などをより多くの方々に知っていただく「環境シンポジウム」を開催します。大学の専門家や地元茨城で希少種の調査・保護活動を行っている茨城生物の会による講話、里山パートナーからの調査報告などを行います。

また、シンポジウム終了後は特別保護区で観察会を行います。



■日 時／6月22日(日) 9:40～12:30

■場 所／管理センター1階

多目的ホール

■定 員／80名(事前申込・定員に

満たなければ当日も可)

■参加費／無料

■協 力／帝京科学大学教授 岩瀬剛二、茨城生物の会、パークパートナー



昨年の開催風景 2013年6月16日撮影